

GLAFS コアセミナー (2016)

日程		CS1：共同研究・個別研究指導	CS2：ケーススタディ	
			講義	総合討議・グループワーク
4月	16日	新入生研究計画報告 共同研究発表 1		
	23日			活力ある超高齢社会を考える
5月	28日	個別研究指導 1	認知症の当事者支援の最前線：永田久美子（社会福祉法人浴風会認知症介護研究・研修東京センター研究部部长）	
6月	4日	共同研究発表 2	超高齢社会の医療福祉：大熊由紀子（国際医療福祉大学大学院教授）	
	11日		在宅医療の実際と展望：太田秀樹（医療法人アスミス理事長） 地域密着型サービスの実際と展望：柴田範子（NPO 法人「楽」理事長）	医療や介護が必要となっても住み続けられる具体的な支援を考える
	18日		地域包括ケアシステムの展望と次世代への期待：宮島俊彦（内閣官房社会保障改革担当室室長）	超高齢社会の地域包括ケアシステムの構築にどう貢献できるかを考える
	25日		超高齢社会で当事者は何を望むか：南砂（読売新聞東京本社取締役調査研究本部長）	高齢社会における当事者主権の医療福祉と地域包括ケアシステムについて、他分野の視点や考え方を整理して、統合する
7月	2日		自治体と総合計画：金井利之（法学政治学研究科教授） 超高齢社会のコミュニティ生活空間整備論：大方潤一郎（工学系研究科教授）	
	16日		秋田市の AFC の取り組みと行動指針の評価と策定：齊藤恵美子（秋田市役所） ソーシャルキャピタルを如何に評価するか：村山洋史（高齢社会総合研究機構特任講師）	理想とする AFC をどのように捉えればよいか、どのようにアプローチすれば（主体、手続、実体）AFC の実現に近づけるのかを整理する
	23日		高齢化社会と法—行政法・地方自治法の視点から：斎藤誠（法学政治学研究科教授）	超高齢社会における自治体政策とプランニングについての具体的なアイデア（方策）を整理する
7月 31日 ～8月 1日		個別研究指導 2 共同研究発表 3		
10月	1日		高齢者の消費行動に関する調査：竹本秀高（株式会社ゆこメディアプロデュース部部长） 多世代コミュニティを誘発する社会のデザイン：岡田誠（株式会社富士通研究所 R&D 戦略本部協創推進 PJ プロジェクト・ディレクター）	アクティブシニアのインセンティブと次世代のマーケティング戦略を考える

10 月	15 日		高齢者におけるゲームの健康維持効果・河村吉章（㈱かいかや代表取締役社長） 博士のキャリア・マネジメント：古野庸一（㈱リクルートマネジメントソリューションズ組織行動研究所所長）	
	22 日	共同研究発表 4		
	29 日	個別研究指導 3-1		
11 月	12 日		サービスロボットの現状を課題：比留川博久（国立研究開発法人産業技術総合研究所ロボットイノベーション研究センター センター長） 高齢者の技能アーカイブや伝達のための技術：檜山敦（情報理工学系研究科特任講師）	高齢社会で有効かつ持続的なサービスを考える
	26 日	個別研究指導 3-2	郊外型住宅団地における大和ハウスグループの取り組み：濱隆（大和ハウス工業㈱取締役常務執行役員） 多様な世代が生き生きと暮らし続けられる住まい・まちづくり：太田潤（独立行政法人都市再生機構ウェルフェア総合戦略部部長）	
12 月	3 日	共同研究活動	社会保障と財政のあり方：岩本康志（経済学研究科教授）	
	10 日	共同研究活動		
	17 日	共同研究発表 5	超高齢社会におけるビジネスモデル～生命保険事業の今後の展望から～：野呂順一（㈱ニッセイ基礎研究所代表取締役社長）	
1 月	21 日		変わる家族と介護：袖井孝子（お茶の水女子大学名誉教授） 認知症家族介護を生きる：井口高志（奈良女子大学准教授） ひとり暮らし高齢者の貧困と社会的孤立：河合克義（明治学院大学教授）	
	28 日		家族に頼れない高齢者をケアする体制：澤登久雄（大田区地域包括支援センター）	高齢者のケアと家族での学びを共有し、介護の現場に対して研究者としてできることを考える
2 月	18 日	個別研究指導 4		
3 月	4 日	共同研究発表 6		